



5 月 号

とよ 永遠の岩のような  
強い意志を持ち、  
空に伸び立つ  
杉のように、  
正しくありたい。  
七百五名の子らよ、  
すこやかに。

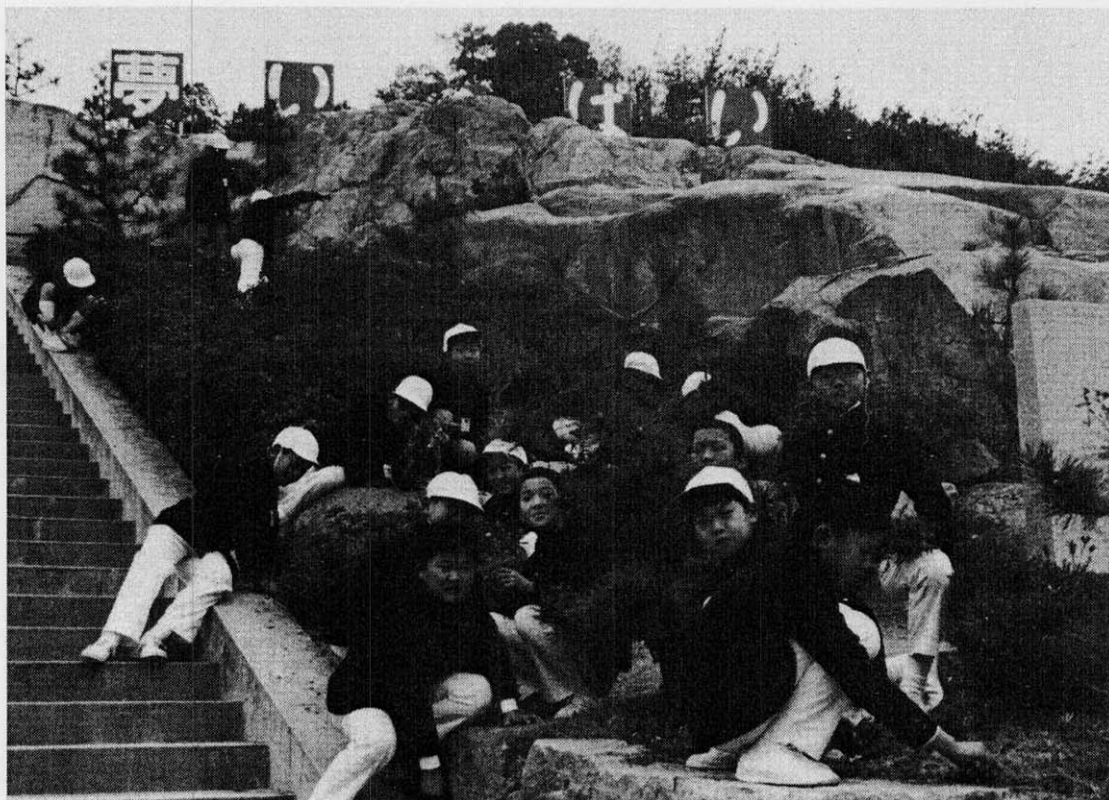
緑いっぱい  
夢いっぱい  
今日の校庭に、  
子らの声が  
こだまする。

校訓  
強く  
正しく  
すこやかに

昭和59年5月1日

編集／発行

岡崎市教育委員会



(草取りに汗を流す一常磐小)

## — 教育随想 —

## 学校・家庭・地域社会



藤岡太郎

昨今の青少年非行の陰湿化、低年齢化等は、そのこと自体、当該校にとっては、ごく一部の生徒のことであり、大多数は、本分を自覚し、意欲をもって学習に取り組んでいると聞くものの、一向に根絶する気配が見えない事態は、憂慮せざるを得ない。

さらに、青少年の一般的欠陥特性として、「甘えが先行して、たくましさに欠ける」、「耐えることを知らず、勤労をいとう」、「基本的な生活行動習慣が不十分」等指摘されているが、これらのどの内容も、学校・家庭・地域社会の三者が、一体的に取り組むべき切実な教育問題であるといえる。

子どもたちは、それぞれの家庭で、親の保護・養育のもとに、さまざまな生活体験をし、また、一方では、学校という組織化された教育の場で、計画的な指導

を受けることを日課とし、加えて、地域社会では、自然環境、社会環境や、地域の人たちに接触し、いろいろな体験を通して成長していくものである。

したがって、健全な子どもへの育成には、ひとりひとりの発達段階に即した、適切な教育をすることは当然であるが、生活や学習の場である学校、家庭、地域社会が、それぞれ独自の教育機能を発揮しながら連携し、相互に補完的な役割を果たし得るような総合的な視点からの教育を構想することが必要であろう。

県内のある市で、小・中学校教師と母親を対象にして、「正しい服装」、「あいさつや返事」等基本的な生活習慣二十九項目について、「学校ですべきこと」、「家庭ですべきこと」、「学校が主で家庭が従」、「家庭が主で学校が従」の四つに分けて調査をした。

その結果、母親と教師の意識が大きくずれ、共通的な内容が、きわめて少ないことがはっきりした。

このことは、学校と家庭とに、組織的な連携・協力体制ができていないことを物語る一例でもある。

ことしもまた、希望に満ちた新入学児童・生徒とともに、新しい保護者を迎え、各学校ともPTAの組織作りや活動が始まっていることであろう。

PTAは、その名の示すとおり、両親と教師の団体であるが、同時に、学校・家庭・地域社会の教育活動を結ぶ団体でもある。

両親と教師が、子どものよりよい成長を願うという共通目標のもとに、相互学習・相互啓発を重ねながら、両親は学校教育について、教師は家庭教育について、それぞれ相手の教育理念と現実を理解しあう努力をすれば、先ほどの調査に見られるような意識のずれも、せばめることができるであろう。

さらに、両者の連携を基盤にして、地域社会の浄化も、進展させることができるのである。

ことしの県教委事業の中で、家庭教育相談員や指導主事の設置をはじめ、職場内家庭教育の推進事業に至るまで、数々の新規事業を計画したが、個々の学校やひとりひとりの教師、保護者の自覚と協力をまたねば前進しないものだけに、大方の理解を願うものである。

(愛知県教育委員長)

## 甘言苦言

## 職員連絡



## 自分の足どりを確める

東海中学校

長浜 宏雄

昭和四十九年、教務主任として六名小学校に赴任し、まず手がけたのが「職員連絡」を毎朝配ることであった。

職員朝礼の時間の短縮、連絡事項の徹底化という意図もあったが、何よりも、二十年ぶりに小学校勤務となった私にとって、戸惑いの毎日である、自分の足どりを確かめるためであった。

B5用紙に連絡内容を書くものの、余白の処置に困ったあげく、その日の日付が載っている文学作品の一部を抜き書きし、ささやかではあるが、本の紹介を兼ねようと思いついた。

昔、数学専攻となった私には、読後ノートに作品の中にある日付を書き記すという一風変わった癖があった。このノートを頼りにして、毎晩、家の書庫に入り、飽くことなく本を取り出しては、飽くことなく書き続けたものである。

三年間これを続けている中に、はから



# 女流書家

伊奈 小 恵氏

柔らかな日差しが背中に感じられるある日の夕方、伊奈小恵先生を自宅にお訪ねした。純日本式のお住まいとお庭は、この道一筋に歩いていられた先生にふさわしい閑静なたたずまいである。

先生は、小学校三年のころから書をよくされ、第二次世界大戦中一時やめられたが、戦後いち早く始められて、以来四十年近く続けていらつしやる。

今も週二回、先生自身の勉強のために刈谷まで通っておられる。また、近くの人たちに請われて、小学生を中心に習字塾を開いておられるという。習うのは好きだが、教えるのは苦手で、なんとなく

怖い気がする」と話された。

習字・書道に、先生をかきかたてたものは何かとお尋ねしてみた。

「たしかに小さいころから好きでした。女でやれることといえば、習字ぐらいしかなかったもので、小学校三年のときから塾に通いました。大人になってからも書き続けたのは、ほかにやることもなかったし……」

物静かな口調で語り継がれる。

「おとなになってからは、先生の情熱と指導力に引かれたと言えるのではないのでしょうか。一生懸命に指導してくださる先生の情熱は、わたしにとつて一番の魅力でした。すばらしい先生との出会いがそうさせたと思います。」

塾の指導で心がけていらつしやることについてお尋ねしてみた。

「どんなことでも、やる気になることが大切だと思えます。どうするとやる気になっていただけるか、それで苦労しています。心がけていることは、ちよつとも良いところがあると、ほめることにしています。また、成績に拘らず努力する人が好きです。そのことも、大いにほめることにしています。兄弟と比較したり、他人と比較するのではなくて、一人ひとりがんばりだけ努力したか向上したかだけをほめることにしています。」

子どもの塾通いについて、家庭で考えてほしいこととして次のよ

うに言われた。

「家の人の働きかけが、大きいのではないのでしょうか。わいわい言い過ぎて、だめになっていると思うことがずいぶんあるような気がします。時々、そつとほめてやるぐらいがいいのではないのでしょうか。」

先生自身の心がけを次のように話された。「月、一回以上の展覧会がありますが、それに出品することです。今度はどうな字を、どんな書体でと考えていますと、やる気がでてきます。」

習字を習いに来る現代っ子を見て感じることにしてお伺いしてみた。先生はよくわからないがとされながらも、喝破された。

「現代っ子といわれながらも、大人がやっていること、思っていることを見抜いています。それだけに、何ごとも大人が真剣に精一杯やるのが大切だと思えます。」

人生の根本問題にふれる数々であった。

〔生年月日 大正十一年六月四日〕  
〔住所 針崎町東カンジハの一〕



ずも、各新聞社の取材攻勢にあうという事態に立ち至った。しかし、元来、自己宣伝のへたな私にとつては、これはかえって重荷ともなったが、夜のガリ切りの益の多かつたことも事実である。

## 教師自身の聞く耳・見る目

矢北小学校

長 坂 博 幸

「……言っておいたのに……」とか「……黒板に書いておいたのに……」というやりきれないような子どもへの叱りことばを耳にすることがある。ところが、教師自身の聞く・見る、ということとは、どのくらいできてきているのだろうか。

そこで、本校の朝の六分間、

① 週予定はできるだけ詳細に書き、めあてとなる甘言苦言を提示する。

② 朝礼三分、基本的なスケジュールを話す。職員は話の一切を特連帳に記録し、聞き落としのないように努める。

③ 係からの連絡事項は、職員室入り口の常設黒板に書き、各自が見て行動する。

④ 朝礼後、スケジュールと連絡事項をもとに学年が打ち合わせ、各自記録する。

四十一学級・職員五十二人・児童千七百六十人が同一歩調で進むには、教師・児童ともに、よく聞き、よく見、よく考え、よく話し合い、助け合い励まし合っていくしかないと考え、聞く・見るという主体的な構えを重視してきた。

「朝礼で言っておいたのに……」などと、混乱した教育活動とならないために……

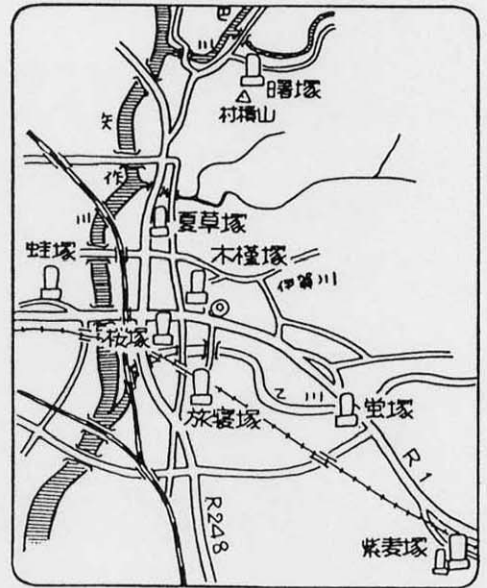


# 翁墳碑めぐり



46

〈市内翁墳碑分布図〉

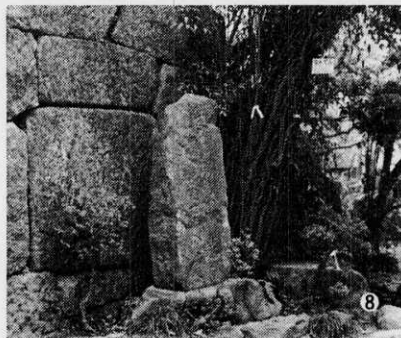
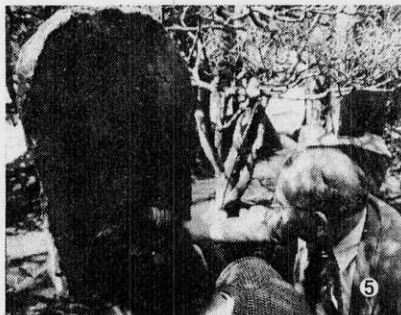


塚名	所在地	建立年	建立者
● 紫麦塚	藤川十王堂	寛政五年	月亭其雄
● 蛙塚	矢作誓願寺	宝曆十三年	矢作橋守園
● 曙塚	奥殿熊野神社	明治十年ころ	加藤善八郎
● 旅寝塚	明大寺安心院	寛政五年	本多李喬
● 木槿塚	梅園春谷寺	慶応三年ころ	不明
● 蛭塚	美合高橋跡	明治三十七年	本間淳治
● 夏草塚	鴨田西光寺	寛保三年	岡崎連中
● 桜塚	岡崎城巽閣	明治十三年	鈴木佳応

春の日差しがふりそそぐ四月八日、文化史にも造詣の深い糟谷正孝先生を講師にお招きし、市内の翁墳碑を巡ってみた。芭蕉の句碑は全国に約二千、そのうち県内には六十一基ある。市内は八か所。風蝕のため文字の読み取れなくなっているものもあるが、いずれ劣らぬ風雅なたずまいである。

にこやかな糟谷先生の知恵の泉から、よどみなく珠玉のごときお話がほとぼり出る。編集子一同、「あらまほしきは先達なり」と、ただ、ただ、頭をたれ、手にペンを握りしめ、時のたつのも忘れて歩み続ける一日であった。





- ① こども三河むらさき麦のかきつばた 翁百回忌に藤川十王堂に建てたもの。後日山中村の月亭其雄が中心となり大きな碑石に建て直した。茂みの中にある元の句碑に、殊に趣がある。この句が芭蕉の句か否かには疑問が残っている。
- ② 古池や蛙飛び込む水のおと 花の塔で有名な矢作誓願寺にある。翁七十回忌に矢作橋守園の人々が建てた。これも十王堂のわきにあり興味深い。
- ③ 曙や未多朝日にほととぎす 熊野神社境内に、香山学校を創設した加藤善八郎氏の碑とともに建っている。書は初代校長海保忠典である。芭蕉が石山寺源氏の間で詠んだ句で、まだ紫にほととぎすという句碑が石山寺にあるようだ。
- ④ 都出て神も旅寝の日数かな 岡崎城主後本多公の三男、本多忠寛(李喬)建立の句碑。もともとは伝馬十王堂わきにあったものを終戦間ぎわ昭和十九年にここに移し、危うく戦災を免れた。前の封地島根県(いづみ)の石を使っている。
- ⑤ みちの辺の木様は馬に喰れけり 野ざらし紀行中の一句。春谷寺は市役所から梅園小学校裏を通る坂の途中にある。藤井達吉翁の歌碑もある、落ち着いた風情のある庭園の片隅にある。
- ⑥ 草の葉を落つるより飛びぬかな 山綱川にかかっていた高橋の親柱に刻んである。河川改修のため、川にも蛍にもそむかれた気の毒な句碑である。
- ⑦ 夏草や兵どもが夢のあと 翁五十回忌に岡崎連中が建てたもので、市内最古のもの。五十回忌のものは全国でも十基しかない。近くに千人塚がある。
- ⑧ 木のもとに汁も鮎もさくらかな 明治十三年、岡崎城跡が公園になった時建てたものという。花見の宴に落花が舞う、岡崎公園にふさわしい句碑である。



## 運動場十三周

美川中 石川 利博

春の小運動会学級全員リレー三位・水泳大会四位・大運動会学級対抗リレー四位。これが我が六年三組の成績である。子供たちは、どんな順位でも、決して悲しんだりはしない。五年生のときも似たようなものだったので、慣れてしまっているのだ。

しかし、負け犬のまま、彼らを卒業させてしまうわけにはいかない。担任として、一度も「優勝」の喜びを経験させられないでは、情けないではないか。

そこで、決心をした。「これから二か月間、毎日朝の会の時間に運動場を走ることにする。マラソン大会に優勝

するための。」  
「えっ！いやだ！」  
「べつに優勝できなくても、いじやんか。」

子供たちは、あまり乗り気ではないようだ。それでも、私もいつしよに走るという条件で、何とかみんなを説き伏せることに成功した。

走る距離は、まず二百メートルトラック五周。そして、一週間ごとに一周ずつ増やしていくことにした。

かけ足開始の日。意気揚々と子供たちを従えて走り始めたものの、三周でもうダウン。残り二周がやけに長く感じた。自分の体力がいかに落ちているのかを嘆くのと同時に、走ろうなんて言い出したことをつくづく後悔した。

六周、七周、八周、九周。子供たちは、しだいに走ることに慣れ、ペースが上がってゆく。

十周、十一周、十二周。必死に走る担任の横を、笑いながら男子が追い抜いていく。

十二月最後の週、とうとう十三周になった。子供たちはともかく、私はこれを十分間で走り切ら

ないと職員朝礼に間にあわない。文字通り死にもぐるいで走った。職員室に入るところには頭から湯気が出ていて、他の先生を驚かせる始末。

こんな朝の特訓のかいあってか、一月に行われた校内マラソン大会には、三組が堂々の優勝を飾ることができた。

「先生、良かったね。優勝の賞状はもらえたし、先生のおなかも引っこんだしね。」

## 教育日々



## 結ぶ

葵中 小椋 弘子

「先生、通信は？」  
「あ、まだ印刷しなかつた。」  
「先生、だめじゃん。」

「わあ、A子に怒られちゃったあ。ごめんね。すぐ作るから。」  
舌足らずなA子の請求だ。笑いに満ち、屈託のない五人の子ら。今年も担任が小椋先生で、ガッ

カリだと、正直だ。こちらの真意を感じ取る不思議なアンテナを持つ、愛しい子たちである。

言葉だけでは通じない子に、言葉を介して働きかけることもどかしさ。肩を揺さぶり、目の中をのぞき込んで、繰り返す。「どうしてわかってくれないの。」

衝動的についわめき出してしまふ。涙の盛り上がりつつ瞳にぶつかって、はっと唇をかむ。私にとって、失敗の連続が「教育の日」といったところだ。

「今年の学級通信は『むすぶ』としたよ。みんなの心と心を結ぶんだよ。先生やおうちの人の心も結び合おうね。」

子供らに語るとともに、私自身に言い聞かせる言葉でもある。帰りの会で、その日の通信を読み聞かせる。その日の連絡を確かめ合い、個々のエピソードを聞いて、わあっと噴き出す。

また絵日記を載せて、その子の暮らしを投影する。学校や家での失敗も見直して、共通の話題とする。それらは、平凡だが、大切にしたい場だ。

学級写真の撮影がC子の欠席で延びた日の、B男の学級日誌。「C子さんが来たら、写真をとる。」

自閉気味のB男が一人で書けた。



言葉はあるが、場に応じたものになりにくいB男。愛らしい表情で、コマーションを繰り返す彼。この一年間で、随分会話らしいものも増し、自分からの要求を表現してくれるようになった。そんなB男の新しい芽だ。学級全員で、B男に拍手を送る。こんな変容を、通信に載せた

い、知らせたい、認め合いたい。B男の母親からの報告。

「自分のことが書いてあると、うれしそうに、読め読めとせがみます。ガスの火を止めて、通信を読むんですよ。」

こうした、かすかな細い糸を、しっかりと結び続けたいと思う。





# 今年も数々のご援助

## ライオンズ・ロータリークラブ等より

昭和五十九年度の教育活動や教育的諸行事に対して、地元ライオンズクラブ・ロータリークラブ等より、今年も次のようなご援助がいただけるようになった。

- 岡崎ライオンズクラブ
  - 特殊教育級児童・生徒の見学バス助成
  - 技術・家庭科展生徒参加等への助成
- 岡崎葵ライオンズクラブ
  - 教育論文副賞
  - おかざぎつ子展への助成
  - 書き初め展への助成
- 岡崎竜城ライオンズクラブ
  - 教育文化賞副賞
- 岡崎中央ライオンズクラブ
  - 理科作品展への助成
  - 背柱側彎基準器七基中学校

- 【寄贈刊物・資料等】
- ◆読み子を育てる読書指導
  - 根石小学校
  - A5 二二〇ページ
- ◆この道ひとすじ 稲葉浅吉
  - B6 三四二ページ
- ◆岡崎市水道50年史
  - 岡崎市水道局

岡崎市水道局

- A5 三八〇ページ
- ◆続・書くことを育てる 三島小学校 A5 二四六ページ
- ◆学習状況評価の参考資料 III
  - 小中学校学習評価委員会
  - B4 孔版印刷
- ◆城北の歴史 城北中学校
  - B6 九八ページ

### ▽市教委訪問

- 五月〃大樹寺小・井田小
- 六月〃岩津小・城北中
- 藤川小・竜谷小
- 九月〃根石小・常磐中
- 十月〃矢東小・新香山中
- 十一月〃細川小・広幡小
- 一月〃大門小・羽根小

### ■五十九年度研究発表校

- ▽6/12・奥殿小〃「気づき・考え・活発に活動する子の育成」
- ―国語・社会・理科・音楽―
- ▽6/19・矢南小〃「魅せられはたらきかける子の育成」――自ら考え問いかけ、深めあう社会科学習――
- ▽6/26・六ツ美中〃「わかる・できる・いきいきとした授業を求めて」――形成的評価をとり入れた実践――(全教科)
- ▽9/21・福岡中〃「意欲をもつて学ぶ生徒の育成」――ひとり学びを生かした授業の実践――

- (全教科)
- ▽9/28・常東小〃「自ら考え行動する子どもの育成」――活力ある学校づくり――(全教科)
- ▽10/16・南中〃「基本的な生活態度の徹底をはかり、活力ある生徒の育成をめざす生徒指導」(中間発表)
- ▽10/23・山中小〃「確かな表現のできる子の育成」――国語社会――

### ▽10/30・六名小〃「道徳的実践力を育てる道徳の授業」(中間発表)

- ▽11/9・矢西小〃「すすんで読み、解く子を育てる」――国語・算数――
- ▽11/16・広幡小〃「授業――構造と展開と――」(中間)
- ▽11/20・恵田小〃「子どもひとりひとりが生きる特別活動」
- ▽10/31・城北中〃愛産研大会
- ▽11/13・大樹寺小〃愛家研大会

### ▽11/27・附属岡崎中〃東教大会

- 昭和五十九年度
- 岡崎市小中学校長会役員
- 【小中学校長会】
  - ▼会長〃鈴木依治(竜美丘小)
  - ▼副会長〃内田松夫(梅園小)
  - 大原和之(竜海中) 藤井清(城北中)

- 北中) 〃監査〃角谷米三(男川小) 柴田正(福岡中) 〃庶務〃柴田清(根石小) 栗田昭夫(甲山中) 〃会計〃伊沢昭(矢東小) 鈴木和夫(矢作中) 〃会計補佐〃鈴木義治(福岡小) 〃評議員〃太田憲吾(大樹寺小) 山本昇(六名小) 細井浩平(三島小)
- 富田丈三郎(井田小) 太田壽夫(岩津小) 伊藤田照和(連尺小)
- 伊藤田参吉(広幡小) 河合勝(美合小) 鳥山幸夫(矢北小) 杉田富貴男(美川中) 大賀真一(葵中) 星野美(東海中) 鳥居尚(岩津中) 中根清巳(南中) 萩野卓郎(矢北中)

### 【小学校長会】

- 〃会長〃内田松夫(梅園小) 〃副会長〃太田憲吾(大樹寺小) 細井浩平(三島小) 〃監査〃角谷米三(男川小) 〃庶務〃柴田清(根石小) 〃会計〃伊沢昭(矢東小) 〃会計補佐〃鈴木義治(福岡小)
- 【中学校長会】
  - 〃会長〃大原和之(竜海中) 〃副会長〃藤井清(城北中) 大賀真一(葵中) 〃監査〃柴田正(福岡中) 〃庶務〃栗田昭夫(甲山中) 〃会計〃鈴木和夫(矢作中)

## 新田橋親柱



所在地—岡崎市明大寺町

童海中学校に登る坂の一本南の通りに沿って、数年前まで、市立図書館の方から流れて来る一条の溝があった。幅のわりに掘りが深く、バス通りの下をもぐって、江川に注いでいた。

この溝には、バス通りの東側にだけ、橋というほどのものではないが、ちよつとした石の欄干があり、二本の親柱がたっていた。当時はだれも気にも止めなかった石柱であるが、上流に童美丘の団地が造成され、下水道が完備されてこの溝が不要となり、埋め立てられると、路傍に取り残されたこの親柱が、急に人の目を引くようになった。

●カ  
ツ  
ト

岩津中

米村

進

町角で親柱の所以を聞いてみると、近所の方々が寄って来た。

昔話に花が咲く。市電の通っていたころ、人の二抱えもあるポプラの並み木があったこと、空襲のときに、この橋の下を防空壕代わりにしたこと、夏の夕べ、橋の欄干に腰を降ろして夕涼みをしたことなど……。

「この親柱は、工事の時に土砂とともに埋め立てられようとしたところを、わしらが、語り草にともらい受け、盗まれないようにセメントで埋め込んで残しといただよ。」  
集まった方々が、口をそろえて教えてくださった。



* 言葉のなかの旅	安岡章太郎	1000
朝日新聞社		
* 京都 火と水と	大村 しげ	1200
冬樹社		
* 女の引出し	津村 節子	1200
文化出版社		
* にせユダヤ人と日本人	浅見 定雄	980
朝日新聞社		

\* 涙をたらした神 吉野 せい 280

阿武隈山麓のきびしい自然の中で夫とともに開拓農民として貧困とたたかい、遅く生きぬいてきた農婦の年代記。  
序に「この文章は、刀毀れのない斧で一度ですばっと木を割ったような切れ味に圧倒された」と串田孫一は書いている。  
底辺に生き抜いた人間の真実味が深い感動を与えてくれる。「涙をたらした神」ほか15の短篇が収録されている。  
70歳を過ぎてから回想し執筆したという。驚くべき記憶力でもある。  
大宅賞受賞作である。

「おは よう ござい ます」と、明るく元氣よくあいさつのできる子どもたち。このすがすがしさを味わうたびに思う。今年も一年、この子ら一人ひとりの限りない可能性を伸ばすために、精一杯の努力をしてやらねばと。彼等にとって、この一年は、決してやり直すことのできない大切な年なのだから。



知らずに通りすぎていた路傍にも、宝物は埋もれているものだ。市内に芭蕉の句碑が八基もあった。それも中心部を離れて。三河の文化を築いた先賢たちが、俳聖を偲んで建てた文化遺産。久々に糟谷先生のおそばでじきじきにお話が聞け、ちよつと風流人になった気分すばらしい一日であった。

明るい笑顔、子どもたちは五月晴れの下、元気にスポーツや勉強に励んでいる。四月当初、緊張していたあの顔も次第にほころび、すべての面で歩調も整ってきた。

職員室をそそくさと出入りしていた先生もようやく落ち着きを取り戻し、冗談も交わせるこのころとなった。

寸暇を借しんで集まった月報の編集委員の先生たち、ものも言わず、左手にタバコを持ち、原稿に目を通す。

「教育随想」「甘言苦言」「ふるさとシリーズ」等々。みんなで取材した特集の写真に目を通すとき、芭蕉の句を口ずさみ、部屋にどつと笑いが起こる。ああ、まだまだオアシスが残っている。